

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

文章は読まなくては始まらない。読む義理のない人間に読んでもらうために、読みやすく魅力のある文章をめざしたい。「講義」「専門」「異和感」といった誤字、「耳ざわりがいい」「立派な生きざま」「尊敬させていただく」といった無神経な表現の続出する文章は論外だ。が、対策は簡単。醜態をさらさないために国語辞典がある。今では語感の辞典も出ている。辞典を引かない書き手は、 だそうだ。

辞書で解決できない問題も多い。言語表現は誤解を招きやすい仕組みになっている。伝える側はある情報をことばに託す。受けとる側は逆にことばから情報を探る。この構造がくせものなのだ。「大きな象」も「僕の好きな人」も「彼女の写真」も「再婚した弁護士妻」も「兄は妹のように歌がうまくない」も「二百万円の貯金と株の半分」も多義的で、意図が正確に通じるか心配になる。表現が正しくても、それが多義的なら、情報が思いどおりに伝達できるという保証はないからだ。他人は自分ではない。背景も知識も経験も違う。その表現で他人に正しく伝わるか、一度は他人の目になって点検したい。そんなちよつとした配慮が誤解を未然に防ぐ。

だが、どんなに気を配っても、相手の協力なしに誤解は完全に防げるものではない。ことばは万全ではないのだ。「マツチある？」と聞かれると、「ない」と答えてそのまま立ち去らず、黙ってライターを差し出す。「白石君、生まれたつて」と聞くと、白石君自身ではなくその家庭で赤ん坊（子犬かもしれないが）が生まれたものと理解する。情報がきちんと伝わるのは、ことばの運ぶ論理だけではなく多分に相手の常識の働きによる。聞く側がことばの意味よりも表現の意図を理解しようとするからだ。コミュニケーションは話し手と聞き手との共同作業なのである。文章でも基本的な構造は同じだ。新聞の見出しに「日本人二人がイラクで襲撃」とあると、当時の常識から「した」でなく「された」と解釈する。そんな読み手の力量と感性を信じて風通しのよい表現ですませたい。誤解を避けようと表現にこだわるうちに文章はがちがちになり、しなやかさを失う。寡黙を尊ぶ美意識が発達し、日本では伝統的に余情を大事にしてきた。極端になれば、ヒント程度のことでば刺激を与え、あとは考えさせる。少なくとも、書かない部分を残して、完成を読者に期待する。粋な文章はそんな姿をしているように思われる。

（中村明『日本語の美』による）

※注 多義的——多くの意味にとれる様子。

寡黙——言葉数が少なくてだまりがちなこと。

問一——線部1「講義」（学問等を説いて聞かせること）「専門」（特定分野を研究すること）をそれぞれ正しい漢字に書き改めなさい。

問二—— に入る語句として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 包丁を握らない料理人 イ 患者が来ない医者 ウ 政策のない政治家
エ 制服を着ない生徒 オ 歌のうまくない歌手

問三——線部2「言語表現は誤解を招きやすい仕組みになっている」とありますが、言語表現はどうして誤解を招きやすいのですか。次の説明文のXに入る言葉を問題文中の言葉を使って答えなさい。

言葉が多義的な場合、Xから。

問四——線部3「兄は妹のように歌がうまくない」は二通りに解釈できます。それぞれの意味を答えなさい。

問五——線部4「マツチある？」とありますが、こうたずねた人の「意図」はどういうことですか。簡潔に答えなさい。

問六——線部5「コミュニケーション」は「意思の伝達」という意味ですが、このように「ーション」という形で、次の1～5の意味になる外来語をそれぞれ答えなさい。

- 1 電飾 2 話すときの声の上がり下がり 3 機械が自動的に仕事をする 4 多様な変化 5 輪番・持ち回り

問七——線部6「粋な文章」として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 書かれた言葉以上に広がる余情を持っている、しなやかな文章。
イ 力量や感性のない読者には、意図が通じないかもしれない文章。
ウ 日本の伝統的な美意識にかかった、言葉の数を切りつめた文章。
エ 読者の誤解を避けようと工夫をこらし、わかりやすくした文章。
オ 筆者が意図をつめこまず、読者の想像力によって完成する文章。

二 次の1～4の□には、「明々白々」のように、「々」が二度使われる四字熟語が入ります。() 内の意味を参考にして答えなさい。

- 1 準備のできた人から、□ 出発する。
(少しずつのまとまりになって行動する様子)
- 2 につかくれせず、□ と勝負する。
(ひきようなやり方をせず、態度が立派な様子)
- 3 □ まで大切に伝えられてきた家宝。
(ずっと後になっても血筋を引いている者たち)
- 4 □ と新しいニュースが入ってくる。
(しだいに物事が移り変わる様子)

三 次の1～5の□には、「あ」で始まって「く」で終わる言葉が入ります。() 内の意味となるように、解答らんに合わせてひらがなで答えなさい。ただし、同じ言葉は一回しか使えないものとします。

- 1 □ 働いているのに暮らしが楽にならない。
(心にゆとりがなくせわしなくことを行う様子)
- 2 □ の雨天の中、開会式が行われた。
(期待や目的にそわずぐあいの悪い様子)
- 3 強いチームに挑戦したが、□ 敗れ去った。
(はかなくあつけない様子)
- 4 □ 世界に知られるような人物になりたい。
(広く全体に行きわたっている様子)
- 5 好きな歌手のコンサートに□ 通う。
(同じ場所にひんばんに向かう様子)

四 次の1～6の句の() には、各組でそれぞれ同じ言葉が入ります。その言葉として最も適当なものを後のア～スから選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---|---------------------|
| 1 () のいのちはかなく剥かれけり
() を刻む涙は楽しくて | (久保田万太郎)
(古沢蘇雨子) |
| 2 () 笑って実る土の中
ストレスをほぐす炬燵の() | (田口令二)
(木下剛) |
| 3 () の味を豆腐がほめられる
老醜に似た() の干し具合 | (上野淡月)
(荒金千秋) |
| 4 () の力地を割り天を突き
越境の罪で() 逮捕する | (菊地喜代史)
(山本昭彦) |
| 5 () のの字ばかりの寂光土
() の拳ほどけよ雲と水 | (川端茅舎)
(桂信子) |
| 6 () をつまみ素直な待ちぼうけ
() の三ツ子のみどり押せば飛ぶ | (大西彩雲)
(久保武) |
- | | | |
|---------|---------|--------|
| ア ぎんなん | イ ふきのとう | ウ えだまめ |
| エ らつかせい | オ ぜんまい | カ だいこん |
| キ たけのこ | ク しゅんぎく | ケ しいたけ |
| コ にがうり | サ えのきたけ | シ たまねぎ |
| ス まくわうり | | |

五 次の1～6の各文が慣用句を使った表現となるように、□にそれぞれ漢字一字を入れなさい。

- 1 身を□にして働く。
- 2 木によりて□を求む。
- 3 □に衣着せぬ言い方をする。
- 4 失敗しては元も□もない。
- 5 柳に□と受け流す。
- 6 木で□をくくったような返事をする。

六 次の〔条件〕にしたがって、漢字のしりとりを完成させなさい。

〔条件1〕 A B と C D は対義語です。

〔条件2〕 A B の読み方は次の(語群)から選びなさい。

(語群) カクシン・カクダイ・カシツ・ゲンイン・セイサン

〔条件3〕 すべての字は音読みで読むものとします。読み方は変わってもかまいません。

〔条件4〕 同じ漢字は二度使ってはけません。

(例) 変 A A B B ① ① 正 ② ② C
C D D 衛

(答) A 革 B 新 ① 規 ② 確 C 保 D 守

* 「革新」と「保守」が対義語。

1 発 A A B B ① ① 理 ② ② C
C D D 用

2 通 A A B B ① ① 検 ② ② C
C D D 見

受験番号

◎ 解 答 に 字 数 制 限 の あ る 場 合 、 句 読 点 な ど の 記 号 も 字 数 に 数 え ま す 。

4	3	2	1
々	々	々	々
々	々	々	々

5	4	3	2	1
あ	あ	あ	あ	あ
	<	<	<	<
<				

1
2
3
4
5
6

6	1
	2
	3
	4
	5

2	1
C	A
D	B
	①
	②

問七	問六					問五	問四		問三	問二	問一
	5	4	3	2	1		.	.			読 解 ↓ 専 問 ↓
	ー シ ョ ン	ー シ ョ ン	ー シ ョ ン	ー シ ョ ン	ー シ ョ ン				(か ら)		